

生涯学習における童謡・唱歌の位置付け その3

～絵画と童謡・唱歌の関係「わが心の風景画展」を通して～

兎 東 淑 美

はじめに

平成8年6月16日(日)「上田童謡・唱歌を愛する会」のメンバー120名で下伊那郡高遠町へバス旅行を行った。目的は日本の音楽教育の基を創られた高遠出身の伊澤修二の足跡を知ることであった。その折信州高遠美術館を見学したが学芸員の方から9月～11月まで、当美術館で童謡・唱歌の絵の展示があることを伺った。高遠町は町制40周年を迎え、記念行事が行われていた。その一環として9月21日(土)～11月4日(月)まで、信州高遠美術館で特別展「わが心の風景画展」が開催された。後に9月28日(土)には当美術館で東京芸術大学の学生の演奏もあることがわかり、特別展と演奏を聴く為に高遠美術館に再度伺った。美術館では同大学の学生が夜の開演に合わせてリハーサル中であつた。その歌声や演奏をBGMのように聴きながら「わが心の風景画展」を鑑賞した。日本画のやわらかい、優しい色合い、懐かしい風景、自然、風習、静かな絵の前で温かい落ち着いた気持ちになり、思わず口からメロディーが流れ1枚ごとに足を止めて歌いながら鑑賞した。

明治12年伊澤修二は文部省の中に音楽取調掛りを設置し、後に東京音楽学校・東京芸術大学となった基を創られ、初代の校長であつた。このような歴史から、東京芸術大学と高遠の町とは深い繋がりがあり10年間もこちらで演奏を続けていることを知った。同大学の学生の演奏は童謡・唱歌「日本のうた ふるさとのうた 100曲」の中から30曲に及ぶ歌や、管楽器演奏であつたが、心に染みる演奏であつた。

この経験から絵画と童謡・唱歌の関係について調べてみたいと思い平成8年11月1日(金)信州高遠美術館に伺い、アンケート調査及び聴き取り調査をさせて頂いた。また期間をおいて平成9年6月15日(日)～23日(月)まで、松本市の井上デパートにおいても「わが心の風景画展」のあることを知り、そちらでも同じ調査をさせて頂いた。今回はそれらの結果を基にして考察をしてみたいと思う。

I 「わが心の風景画展」について

次の文は「日本のうたふるさとのうた わが心の風景画展」にあたっての、前東京芸術大学学長平山郁夫画伯のことばである。

「日本のうた ふるさとのうた 100曲」は、明治、大正、昭和、そして平成とうたい継がれ、愛されてきた日本を代表する歌です。

平成元年に発表された「100曲」の選定には、私も諮問委員の一人として参加させて頂

きました。ここに選ばれた「100曲」は、多くの人々の圧倒的な支持を得た歌ばかりで、まさに、私たち日本人の「心の歌」とよべるのではないのでしょうか。

しかし、またこれらの歌にうたわれた舞台や情景、そして遊びや風習が、私たちの周囲から急速に失われつつあるのも悲しい事実です。

日本人なら誰もが思い浮かべる情景、どこにでもあったなつかしい故郷の景色、それは、私たち日本人の「心の風景」です。

失われつつあるこれらの情景を絵にして、歌とともに後世に、21世紀に残していくことは、今しかできません。

日本人の心をうたった童謡を日本人の心を描く日本画で表現するという画期的な大事業に多くの方たちのご賛同くださり、ここに100枚の絵が完成しました。

私たち、日本画家50人が精魂を傾けて描きましたこの100枚の絵は、100曲の歌とともに、いつまでも皆さまに愛され続けることと確信いたします。

童謡と日本画を通じて、もう一度このすばらしい日本の文化と自然を見つめなおす、一つのきっかけになればと願う次第です。

平成7年 春

日本のうた ふるさとのうた

わが心の風景画展

1996年発行

監修

平山郁夫

編集・発行 株式会社講談社

以上のような経過で次の日本を代表する画家50人が1人2作品を担当され、100曲の童謡が描かれている。季節によって分けられている作品を100曲順番に書くと次のようになる。これは実際に展示された順でもある。

春

- 1 蛍の光 〔鈴木恒世〕
- 2 蝶々 〔上村淳之〕
- 3 あおげば尊し 〔倉島重友〕
- 4 さくら 〔岩澤重夫〕
- 5 埴生の宿 〔梶田隆一〕
- 6 花 〔山岸 純〕
- 7 荒城の月 〔後藤純男〕
- 8 美しき天然 〔月岡榮貴〕
- 9 春が来た 〔坪内滄明〕
- 10 鳩 〔山本真也〕
- 11 茶摘 〔林 功〕
- 12 春の小川 〔中路融人〕
- 13 早春賦 〔三輪晃久〕

夏

- 30 夏は来ぬ 〔濱田昇児〕
- 31 大こくさま 〔北田克己〕
- 32 われは海の子 〔米谷清和〕
- 33 鯉のぼり 〔川島睦郎〕
- 34 海 〔小山 硬〕
- 35 故郷 〔岩澤重夫〕
- 36 宵待草 〔中野弘彦〕
- 37 てるてる坊主 〔宮廻正明〕
- 38 揺籠のうた 〔野々内良樹〕
- 39 夕日 〔大野百樹〕
- 40 七つの子 〔今井珠泉〕
- 41 背くらべ 〔中島千波〕
- 42 シャボン玉 〔村田茂樹〕

- 14 朧月夜 [福井爽人]
- 15 靴が鳴る [小野浩一]
- 16 赤い靴 [伊藤 彬]
- 17 春よ来い [梅原幸雄]
- 18 からたちの花 [堀 泰明]
- 19 チューリップ [渡辺信喜]
- 20 花かげ [山崎隆夫]
- 21 うれしいひな祭り [伊藤彰耳]
- 22 オウマ [竹内浩一]
- 23 お山の杉の子 [畠中光享]
- 24 とんがり帽子 [吉原慎介]
- 25 さくら貝の歌 [藤井康夫]
- 26 あざみの歌 [渡辺信喜]
- 27 ぞうさん [水谷愛子]
- 28 四季の歌 [那波多目功一]
- 29 おもいでアルバム [箱崎睦昌]

秋

- 55 故郷の空 [榊田隆一]
- 56 箱根八里 [大野百樹]
- 57 旅愁 [倉島重友]
- 58 桃太郎 [岩壁富士夫]
- 59 紅葉 [川島睦郎]
- 60 村祭 [岩壁富士夫]
- 61 城ヶ島の雨 [中村宗弘]
- 62 琵琶湖周航の歌 [中路融人]
- 63 浜辺の歌 [濱田昇児]
- 64 十五夜お月さん [山中雪人]
- 65 どんぐりころころ [今井珠泉]
- 66 砂山 [月岡榮貴]
- 67 月の沙漠 [那波多目功一]
- 68 あの町この町 [米谷清和]
- 69 雨降りお月 [竹内邦夫]
- 70 赤蜻蛉 [平山郁夫]
- 71 中国地方の子守歌 [林 功]
- 72 影を慕いて [伊藤 彬]
- 73 牧場の朝 [竹内邦夫]

- 43 夕焼小焼 [斎藤博康]
- 44 波浮の港 [山崎隆夫]
- 45 アメフリ [箱崎睦昌]
- 46 この道 [畠中光享]
- 47 コイノボリ [山中雪人]
- 48 かもめの水兵さん [山本真也]
- 49 ウミ [平山郁夫]
- 50 みかんの花咲く丘 [斎藤博康]
- 51 夏の思い出 [中村宗弘]
- 52 めだかの学校 [荒井 孝]
- 53 サッちゃん [水谷愛子]
- 54 芭蕉布 [斎藤彰男]

冬

- 79 かごめかごめ [中野弘彦]
- 80 ずいずいずっころばし [伊藤彰耳]
- 81 お正月 [村田茂樹]
- 82 青葉の笛 [後藤純男]
- 83 七里ヶ浜の哀歌 [三輪晃久]
- 84 ふじの山 [小山 硬]
- 85 雪 [野々内良樹]
- 86 冬景色 [上村淳之]
- 87 かなりや [福井爽人]
- 88 叱られて [手塚雄二]
- 89 浜千鳥 [坪井滄明]
- 90 通しゃんせ [北田克己]
- 91 青い目の人形 [藤井康夫]
- 92 花嫁人形 [堀 泰明]
- 93 待ちぼうけ [斎藤彰男]
- 94 ペチカ [吉原慎介]
- 95 鞠と殿さま [中島千波]
- 96 子守歌 [小野浩一]
- 97 たき火 [梅原幸雄]

- | | |
|---------------------|----------------------|
| 74 椰子の実 [竹内浩一] | 98 雪の降る街を [野村義照] |
| 75 お猿のかごや [手塚雄二] | 99 かあさんの歌 [鈴木恒世] |
| 76 里の秋 [山岸 純] | 100 いぬのおまわりさん [荒井 孝] |
| 77 五木の子守歌 [野村義照] | |
| 78 ちいさい秋みつけた [宮廻正明] | |

II 調 査

高遠美術館長 堀井英世氏にお伺いしたが、これら童謡の絵は画家の先生方も苦しんで描かれたようだ。また学芸員の方が平山郁夫画伯から直接伺った次のような話を聞かせて頂いた。「米機の襲来を友人に知らせようと思い、15歳の時広島で被爆された。その後23歳で原爆症が出てそれから仏画を描かれるようになった。」このことについては自伝素描集『私の歩いた道』に詳しく書かれている。

自伝素描集『私の歩いた道』より

昭和34年5月、恒例の東北写生旅行には学生を率いて参加した。十和田湖の和井内から奥入瀬を経て焼山に登り、さらに八甲田山まで北上して蕨温泉に下りるという行程だった。動悸やめまいに襲われながら、学生の後について行くのがやっとだった。

東京に戻ってしばらくして、新聞の小さな記事がふと目にとまった。東京オリンピックの聖火がギリシャからシルクロードを経てもたらされるという話だった。じっと見つめていると、仏法を求めて砂漠を往復した三蔵法師の姿が、浮かび上がってきた。

死ぬような思いをして八甲田山の写生旅行をしてきたあとだけに、法師の苦しみがある種の実感を伴って分かった。実感があるからこれは描けそうだという気がしてきた。

これが最後の絵になるかもしれないという張り詰めた気持ちもあった。

出来上がった絵は「仏教伝来」と題し、秋の院展に出品した。……後略

平山郁夫画伯は今回の「わが心の風景画展」では「赤蜻蛉」と「ウミ」の2作品を出品されている。その中の「赤蜻蛉」は夕焼けの薬師寺を背景に赤蜻蛉が西方浄土に向かって進んでいることを表していると伺った。蜻蛉は大空を自由に飛んでいるのが普通だが、この絵は右から左つまり西を目指して飛んでいる。それがとても自然でしかも祈りのこめられた絵であることが分かった。

また、平成8年9月28日(土)に信州高遠美術館で「わが心の風景画展」の絵はがきを何枚か購入し、本学の教授であった関克彦先生(絵画製作を担当されていた。現在90歳)にお送りした所、次のようなお便りを頂いたのでその一部を紹介したい……『絵はがきに描かれている心象風景は、子どもの雑誌「赤い鳥」などにもよく載せられ、また学校で教えられた唱歌も多く、私は絵はがきを見ながら口ずさんで子どもの頃の私になっていました』……絵はがきを見てこんなに喜ばれる先生の姿を想像して、では実際美術館で本物の絵を鑑賞した人々はもっと感動があるのではないか。また年代によって感じ方に違いがあるのか、曲数も内容も調査したいと思った。そして曲数などは、年齢の高い方の方が多く、低い方々は少ないのではないかと想像

し、次のような内容のアンケート調査を実施した。

信州高遠美術館における調査

平成8年11月1日（金）

アンケート調査

「わが心の風景画展」を御覧になって次のことにお答え下さい。

- 1 本日はどちらから来られましたか？
- 2 年齢（ ）男・女
- 3 100曲の絵の中で知っている曲は何曲位ありましたか？
メロディーは浮かびましたか？
- 4 あなたの心に残った絵と歌を2つお書き下さい。
- 5 絵を見られた感想をお書き下さい。

（ありがとうございました）

〔調査の分析〕

信州高遠美術館で行われた「わが心の風景画展」のポスター等の宣伝は全国の美術館関係に配布されたので、期間中の入場者数は7544名で外部からの方が多かった。

アンケート調査は平成8年11月1日（金）開館から閉館まで一日行った。調査用紙は200枚用意し行ったが、その後も美術展の終わる11月4日（月）まで美術館の好意で続けて頂き、合計329名より回答を得る事が出来た。そのうち男性は164名・女性は165名であった。

松本市井上デパートの調査は平成9年6月15日（日）～23日（月）の期間行い、調査用紙は500枚用意したが、井上デパートの好意で増刷り頂き合計443名より回答を得る事が出来た。そのうち男性107名、女性336名であった。

アンケート調査における普遍性とか資料の抽出方法の公平性という意味から考えると、本アンケート調査は厳密に言うとは妥当性を欠いている面がある。しかし絵画と童謡・唱歌の関係を追求する感性重視の本調査においては、必要な傾向を知る為の資料が得られたと判断し、以下のように推論する。

次にこれらのアンケートを項目別に男性、女性と比較して考察を加えてゆきたい。

表Ⅰよりこの期間のアンケート結果から高遠美術館の場合、男女の回答数はほとんど同じであった。年代順に見ると男女共に30代・50代・70代・80代が少なかった。高遠町はこの企画を町制40周年行事として行ったので、町内の中学生が美術の授業で鑑賞していた。また町役場の職員も鑑賞していたが、両方共に大変楽しそうであった。このような機会は現代において心の健康面からも大切だと感じた。

これより比較に入るが、高遠美術館での調査を高遠、松本井上デパートの調査を松本と記させて頂く。

表Ⅰより、高遠・松本の回答数の合計数は772名、そのうち男性は271名、女性は501名で男性の1.84倍の人数であった。

1 本日はどちらから来られましたか? 2 年齢・男・女

表 I

	男 性 (271名)									女 性 (501名)							
	高 遠 町				松 本 市					高 遠 町				松 本 市			
年齢	町内	県内	県外	合計	市内	県内	県外	合計	年齢	町内	県内	県外	合計	市内	県内	県外	合計
8才					1			1	8～9才					2			2
10代	19	1		20	0	1	0	1	10代	20	1		21	9	6	0	15
20代	18	2	3	23	1	2	0	3	20代	18	5	6	29	6	5	0	11
30代	9	6	2	17	1	0	0	1	30代	12	9	0	21	14	6	0	20
40代	16	5	1	22	10	2	0	12	40代	16	14	2	32	23	17	1	41
50代	4	14	9	27	9	9	1	19	50代	10	14	8	32	47	28	1	76
60代	13	18	6	37	19	17	0	36	60代	8	10	6	24	68	35	2	105
70代	5	5	0	10	18	10	0	28	70代	2	1	1	4	38	12	0	50
80代	0	0	0	0	5	1	0	6	80代	0	2	0	2	6	2	0	8
(記入なし)	2	6	0	8					(記入なし)					7	1	0	8
合計	86	57	21	164	63	42	1	107		86	56	23	165	220	112	4	336

高遠の調査では、この期間のアンケート結果で男女の回答数は164名と165名で、ほぼ同数であった。男性の場合60代が37名で一番多く回答している。次に50代・20代と続いている。回答者の少ない年代は、70代の10名で次に30代であった。

一方女性の場合、回答者の多い年代は40代・50代で同数の32名で次に20代の29名であった。これは男女共通であった。回答者の少ない年代は、80代が2名で次に10代・30代であった。30代と70代と回答者の少ないのは、やはり男女共通の年代であったことが分かる。

松本の調査では、男性107名に対して女性336名と男性の3.14倍の女性が回答していることがわかる。そこで男性の回答者の多い年代を見ると60代の36名、70代の28名、50代の19名と続いている。60代が一番多いのは、高遠と同じであった。回答者の少ない年代は30代と10代の1名、20代の3名であって、これは他の年代よりも極端に少ないし、高遠よりも少ない。しかし少ない年代はこれも高遠と同じであった。

松本の女性の場合では、回答者の一番多い年代は60代の105名であり、次に50代の76名、70代の50名と続く。人数の差は大きい、1～3の順位は、松本の男性と同じであった。回答者の少ない年代は、20代の11名、10代の15名、30代の20名であった。人数の差はあるが30代・20代が少なく松本も男女同じであった。

以上の結果、回収されたアンケート数では女性が男性の1.8倍であった。また高遠・松本共通して回答者の一番多い年代は60代であったことから、この年代の方々は大変興味のあることが分かる。次に続く年代は高遠では50代・70代の順であり、松本では70代・50代の順になっていた。いずれにしても50代～70代の方々が非常に興味を持っておられる。童謡の会の会員も時間的にもゆとりのあるこの年代の方々が多く現在の童謡・唱歌のブームを支えているが、ここでもその傾向が表われていることが分かる。反対に回答者の少ない年代を見ると、高遠では男女共通して10代・30代・70代が挙げられる。松本では30代・10代・20代の順となっていて、や

はりここでも高遠・松本で共通している年代がある。10代は小学生であるので別として、30代については、興味が少ないのであろうか、前回の調査では30代の人々の中に、小学校時代の授業で童謡・唱歌を余り教わらなかったという回答もあった。一方においてこの年代は家庭教育など色々の面で大変な時期であり余裕のないことを示しているようにも感じた。

3 100曲の中で知っている曲は何曲位ありますか？(メロディーは浮かびましたか？)

表II <高遠・松本を合わせたもの>

100 曲 の 絵 の 中 で 知 っ て い る 曲																								100曲の絵を見て メロディー浮かぶ						
男 性 (274名)														女 性 (488名)																
曲数 年代	10	20	30	40	50	60	70	80	90	100	合計 人数	平均 曲数	曲数 年代	10	20	30	40	50	60	70	80	90	100	合計 人数	平均 曲数	男女 年代	男性 (274)	女性 (488)		
	10代	2	1	2	3	9	1	1	1			20		44	10代	1			4	8	11	9	1	1						35
20代			3	1	20	2	6	7	5	1		45	51	20代				3	1	4	3	9	13	4		37	68	20代	100%	78%
30代				1	1			2	3	8	3		18	71	30代						2	1	12	25	1	41	85	30代	76%	85%
40代						2	3	4	7	11	5	32	81	40代					3		1	9	56	8	77	88	40代	100%	92%	
50代					1	1	3	2	4	22	9	42	85	50代						1	1	3	69	29	103	84	50代	88%	97%	
60代	1	1	2	3	1	1	3	16	25	17	70	82	60代					2	1	2	1	63	58	127	93	60代	85%	96%		
70代	1	1				2	1	3	4	18	5	35	81	70代					1			1	30	19	51	92	70代	97%	100%	
80代										4		4	90	80代								6	4		10	84	80代	100%	100%	
その他						1		2	1	4	8	—	その他									2	1	4	7	—				

表IIでは、高遠の調査と松本の調査を合わせて作成した。100曲中の知っている曲数と、絵を見てメロディーが浮かびましたか？という2つの質問である。10代の男性（中学生）の知っている曲数の最大は80曲であり人数の多いのは50曲で9名がいる。平均曲数は44曲である。メロディーについての質問では「すごく浮かぶ・も〜ち〜ろ〜ん」等楽しい回答が記されていて、回答者の95%の生徒が浮かぶと回答している。10代の女性（中学生）の知っている曲の最大は80曲であり人数の多いのは60曲で9名であった。曲は男性より多い。平均曲数は45曲である。メロディーについても91%の生徒が浮かぶと回答している。この年代の知っている曲数については、想像通りであった。

年代が高くなる程、平均曲数も多くなっている。男性では40代～70代が平均80曲以上知っている。メロディーについての質問では40代の男性の「浮かんだよ——!!」という楽しい回答もあり40代では100%，50～70代も88%～97%が浮かぶと回答している。80代は4名で少なかったが知っている平均曲数は90曲でメロディーについては全員浮かぶと回答している。

20代女性は平均曲数は68曲であったが「メロディーがいっぱい頭の中をぐるぐると……」と記した方もあった。30代～50代と80代は平均曲数が80曲以上でありメロディーについては、ほとんど浮かぶと回答している。40代では「次から次へと浮かび涙が出ました」と記した方もあった。30代の女性からは100曲全部知っているという回答の方が出て来る。100曲全部知っている方の多い年代は60代で、127名中58名（46%）の方が全部知っているという回答している。男性

の中で100曲全部知っている方の多い年代も60代で70名中17名（24％）である。調査の中で99曲を知っているという方が多かったが、知らない1曲は芭蕉布が多かった。意外だったのは、60代・70代の男性に他の年代より曲数を知らない方が数名いた事であった。この表からは年齢と曲数がほぼ比例していた。小さい頃に歌った曲は忘れないで、いつでも思い出せることは素晴らしいことであると同時に、年齢を越えて脈々と続いている童謡・唱歌及びその心は日本の文化財としての大切さも表わしていることが分かる。

次に質問4と質問5を続けて年齢別に分析してみたい。なお曲の順番は100曲の番号順で整理した。

4 あなたの心に残った絵と歌を2つお書き下さい。

〈10代男性〉 中学生19人を含む。() は多い順の数字

絵

- | | | |
|---------------|----------------|-------------|
| 1 赤蜻蛉(6) | 5 月の沙漠(2) | 9 ぞうさん(1) |
| 2 どんぐりころころ(3) | 6 お猿のかごや(2) | 10 こいのぼり(1) |
| 3 海(2) | 7 ちいさい秋みつけた(2) | 11 夕焼小焼(1) |
| 4 故郷(2) | 8 蛍の光(1) | 12 桃太郎(1) |

歌

- | | | |
|------------|-------------|----------------|
| 1 さくら(3) | 6 蛍の光(1) | 11 夕焼小焼(1) |
| 2 荒城の月(2) | 7 春が来た(1) | 12 夏の思い出(1) |
| 3 海(2) | 8 ぞうさん(1) | 13 どんぐりころころ(1) |
| 4 サッちゃん(2) | 9 四季のうた(1) | 14 雪の降る街を(1) |
| 5 赤蜻蛉(2) | 10 こいのぼり(1) | |

5 絵を見られた感想について

- どれも素晴らしい・すごくうまかった・いいね～・いい絵と思った・心に残ったなど…10名
- 光っている絵もすごいと思ったけれど、普通に光っていない絵もすごかった。
- とてもきれいな絵ですごい。気に入ったのが沢山あった。夢中になった。
- いい絵で、とてもとても感動した。……3人 なんかあったかくなった。
- 色使いやさしくて「ホッ」とする感じをうけました。暖かみのある風景画が多く描かれていて、素晴らしかった。ありがとうございました。(16歳)

歌との関係

- うただけで絵がかけたなんて…… ○絵を見ているだけで、頭に歌が浮かんでくる。
- 絵らしい歌が浮かんできた。 ○知っている歌が沢山あった。とてもいい絵だった。

〈10代女性〉

絵

- | | | |
|----------|-----------|----------|
| 1 さくら(7) | 2 春が来た(5) | 3 赤蜻蛉(5) |
|----------|-----------|----------|

4 雪(5)	9 朧月夜(3)	14 七里ヶ浜の哀歌(2)
5 雪の降る街を(5)	10 牧場の朝(3)	15 たき火(2)
6 さくら貝のうた(4)	11 子守歌(3)	16 鯉のぼり(1)
7 夏の思い出(4)	12 かあさんの歌(3)	17 故郷(1)
8 どんぐりころころ(4)	13 荒城の月(2)	18 チューリップ(1)
歌		
1 春が来た(3)	7 さくら(1)	13 かもめの水兵さん(1)
2 夏の思い出(3)	8 茶摘(1)	14 椰子の実(1)
3 旅愁(3)	9 とんがり帽子(1)	15 たき火(1)
4 雪の降る街を(3)	10 夏は来ぬ(1)	16 荒城の月(1)
5 夕焼小焼(2)	11 大こくさま(1)	17 サッちゃん(1)
6 雪(2)	12 七つの子(1)	18 紅葉(1)

5 絵を見られた感想について

- 100枚もあるなんて信じられない。すごくきれいで見に来てよかった。
- すばらしかった・すごくこまかくてきれいな作品・どれもいい絵ばかりで心に残った・本物の
のような絵だった・桜の絵がとてもきれいでした・すごく感動しました。素敵な絵でした。
色使いがとてもきれいでした。何時か見たい絵ばかりでした。

歌との関係

- 絵を見ればすぐに歌が浮んで、おもしろかった。絵はとてもきれいだった。(3名)
- 絵1つ1つに歌の感情がこめられていた。とてもよかった。(2名)
- すごくきれい。うたの思いが浮かぶ絵でした。歌と絵が合っていてすごくよかった。
- 春の絵が一番好きです。色々な曲が浮かんでよかったです。(2名)
- 年に一度位、見に来ています。今年は日本の歌と共に、すばらしい絵を見ることが出来ました。唱歌はいいですね。(19歳)
- 人はそれぞれ歌を聞いて、歌の絵を想像しますが、それはみんな違うんだなーと思いました。

〔考 察〕

4. あなたの心に残った絵と歌を2つお書き下さい。の質問で10代の男女を比べて見ると、絵で共通していた作品は「赤蜻蛉」、歌で共通していた曲は「春が来た・さくら・荒城の月・夏の思い出・夕焼小焼・サッちゃん」の6曲が挙げられている。男女では絵の選び方も少し違うように思われた。しかし絵も歌もほぼ同数が挙げられていて共通曲の6曲についても、ベスト100曲の上位の曲が多いように思った。また質問を「2つをお書き下さい」としたためそれぞれ2点ずつ4点書いた生徒と1点ずつ2点書いた生徒の2通りの回答があった。質問の出し方について反省する点であった。

5 絵を見られた感想について

絵については男女共大変感動している・すごい・素晴らしい・美しい、男生徒の中に夢中に

なった・なにかあったかくなった等があって、今の生徒の表現方法で作品展の素晴らしさを表わしていて心を打たれた。歌との関係では絵の1つ1つに感情がこめられている回答や、歌が浮かんで来る様子が書かれていた。この回答を見て改めて感性豊かなこの年代の生徒に1人でも多く見せたいと思った。そして歌のイメージが絵に表現されると、人によって感じ方に違いのあることが分かりそれを理解する様子が感じられた。16才の女性に御礼の言葉があった。

4 あなたの心に残った絵と歌を2つお書きください。

〈20代男性〉

絵

- | | | |
|-------------|-------------|----------------|
| 1 雪(3) | 7 花かげ(1) | 13 浜辺のうた(1) |
| 2 故郷(2) | 8 四季のうた(1) | 14 どんぐりころころ(1) |
| 3 月の沙漠(2) | 9 鯉のぼり(1) | 15 雨降りお月(1) |
| 4 かあさんの歌(2) | 10 揺籠のうた(1) | 16 お猿のかごや(1) |
| 5 さくら(1) | 11 サッちゃん(1) | 17 お正月(1) |
| 6 春が来た(1) | 12 桃太郎(1) | 18 雪の降る街を(1) |

歌

- | | | |
|-------------|--------------|----------------|
| 1 雪(2) | 7 鯉のぼり(1) | 13 ふじの山(1) |
| 2 蝶々(1) | 8 しゃぼん玉(1) | 14 青い目の人形(1) |
| 3 あおげば尊し(1) | 9 夕焼小焼(1) | 15 たき火(1) |
| 4 荒城の月(1) | 10 この道(1) | 16 四季のうた(1) |
| 5 花(1) | 11 夏の思い出(1) | 17 かあさんの歌(1) |
| 6 春の小川(1) | 12 お猿のかごや(1) | 18 犬のおまわりさん(1) |

5 絵を見られた感想についてお書き下さい。

- 素朴でよかった・なんかいい(4名)
- その歌・その歌の情景がよく表されていてよかったと思う。
- 歌から絵が想像出来て、絵から歌も想像出来る。
- 自分の持っている歌のイメージと同じものもあれば、全く違うのもあって楽しかった。
- 特徴のある絵が多かった・自分の印象との違いが楽しい。
- 絵を見ていると、その風景の中にいるような感じのする絵があった。
- 大変懐かしく感銘した・昔に戻った気持ちになった・心にしみた・ほのぼのとした。
- 小学生の頃の音楽の授業を思い出して、とても懐かしく思いました。どんなポップスよりも、とても素晴らしい。
- いくつかの作品から作者が表現したいと思われる「思い」を感じ、自分の持っているふる里や自然に対する見方と共通するものではないかと思った。
- 1つ1つの作品に、それぞれのイメージを浮かばせる力を持っていたように感じた。

〔考 察〕

4の質問については、10代に比べると曲数も多くなっている。しかしアンケートの中では余り沢山あって選べないと記入した人も4名あった。絵にも歌にも選ばれた曲は「鯉のぼり・お猿のかごや・雪・かあさんの歌・四季のうた」の5曲であった。100曲中の順位では作品が分散している。5の質問の感想については、全部の人がよかったと感じていた。また作者の表現したい思いが自分と共通すると感じたり、懐かしく感じている。

〈20代女性〉

絵

1 朧月夜(5)	9 しゃぼん玉(2)	17 さくら貝のうた(1)
2 故郷(4)	10 青い目の人形(2)	18 四季のうた(1)
3 夕焼小焼(4)	11 雪の降る街を(2)	19 夏は来ぬ(1)
4 雪(4)	12 蛍の光(1)	20 われは海の子(1)
5 荒城の月(3)	13 春の小川(1)	21 ウミ(1)
6 赤蜻蛉(3)	14 早春賦(1)	22 月の沙漠(1)
7 さくら(2)	15 うれしいひな祭り(1)	23 椰子の実(1)
8 背くらべ(2)	16 お山の杉の子(1)	24 ずいずいずっころばし(1)

歌

1 朧月夜(3)	9 春が来た(1)	17 かもめの水兵さん(1)
2 ぞうさん(3)	10 早春賦(1)	18 サッちゃん(1)
3 さくら(2)	11 おもいでアルバム(1)	19 椰子の実(1)
4 赤蜻蛉(2)	12 夏は来ぬ(1)	20 お猿のかごや(1)
5 牧場の朝(2)	13 海(1)	21 ちいさい秋みつけた(1)
6 かごめかごめ(2)	14 故郷(1)	22 青葉の笛(1)
7 ずいずいずっころばし(2)	15 宵待草(1)	23 浜千鳥(1)
8 蝶々(1)	16 夕焼小焼(1)	24 通リゃんせ(1)

5 絵を見られた感想をお書き下さい。

- 絵はよく分からないけれど、何か伝わって来たような気がした・歌の季節がフワ〜と浮かんだ。
- 自分のイメージと合う絵、合わない絵など想像を広げて見る事が出来た・昔から親しんできた曲にイメージ通りの絵がついていると嬉しかった・イメージと違うものもあった。
- 絵から曲が流れて来そうだった。すごく曲が好きになれた・素敵な企画です。絵と歌のミックスされたものが心の中を温かくしてくれました。
- 全体的にやさしい絵で、日本の四季の美しさや、やさしさを改めて感じました。
- 田舎を思い出すというか、子供の頃を懐しむ曲ばかりで少し実家に帰りたいと思いました。
- 見ながら、うた声が小さな声で聴こえて来ると、ほのぼのとなりました。

- こういう歌って、首をちょっと斜めにしたような、うつむきかげんのような「暗さ」「さみしさ」「影」「わびしさ」が、どこかにあるように感じました。
- 来たのは2度目、前回見た時に目を引いた曲に、今回も目がゆきました。ふるさとの歌から絵を描けることは、様々な角度からイメージ出来るのですばらしい。
- きれいな絵だった。「思い出のアルバム」は18歳の時ピアノで弾けるようになり、いつでも弾けるように覚えたので、特によいと思いました。
- 子供の頃を思い出し、口ずさみながら懐しく見せてもらいました。子供と一緒に見たらもっとよかったと思います。(28歳)
- 楽しかった。童心にかえれた・心やすらぐ時間をゆっくり過ごせた。心が美しくなったように思います。

〔考 察〕

20代の女性は曲数が多くなり、9曲が絵と歌と共通していた。「さくら・早春賦・夏は来ぬ・朧月夜・故郷・椰子の実・ずいずいずっころばし・夕焼小焼・赤蜻蛉」また感想については、沢山の記入をして頂いた。全部を書くことは出来なかったが、その中でやさしい絵の中に日本の四季の美しさ、やさしさを感じているもの、心が温まり、心やすらぐ等の記入は多かった。子供と一緒に見たい、懐かしいなど母親らしい思いもあった。自分の経験を通して曲から絵を見た「思い出のアルバム」や、口ずさみながら鑑賞する様子が想像出来る回答も多かった。男性よりも多くの感想があったのも女性の特徴であると思った。

〈30代男性〉

絵

- | | | |
|-----------|-------------|----------------|
| 1 さくら(3) | 7 春が来た(1) | 13 里の秋(1) |
| 2 赤蜻蛉(3) | 8 夏の思い出(1) | 14 たき火(1) |
| 3 蛍の光(2) | 9 五木の子守歌(1) | 15 かあさんの歌(1) |
| 4 雪(2) | 10 紅葉(1) | 16 犬のおまわりさん(1) |
| 5 花嫁人形(2) | 11 叱られて(1) | |
| 6 埴生の宿(1) | 12 通リゃんせ(1) | |

歌

- | | | |
|---------------|-----------|---------------|
| 1 荒城の月(2) | 4 鯉のぼり(1) | 7 どんぐりころころ(1) |
| 2 蛍の光(1) | 5 夕焼小焼(1) | |
| 3 思い出のアルバム(1) | 6 赤蜻蛉(1) | |

5 絵を見られた感想をお書き下さい。

- 素晴らしい・良かった・楽しかった・最後のメッセージはよかった。部屋に飾りたいような絵が多かった。心に残った。これだけの作家の作品を集められたのは驚きであった。
- 歌から想う絵でイメージのあうものと、全くあわないと思うものがある気がした。

- 歌と絵を見ながら子供の頃を思い出し、心が落ち着きました・心が安らぎました。
- 日常の忙しさのうちに忘れていた昔の情景を思い出させてくれ、心の安らぎを覚えました。
- 最近仕事でイライラしていましたが、気分がすっきりしたような気がします。年のせいですか以前ですと何も思わなかった絵が、素晴らしく思えました。今日は1人でしたが、今度は母親にも見せてあげようと思いました。(38歳)

〔考 察〕

30代の男性では絵が17点、歌は7曲、10代20代に比べると少なかった。しかし感想は多く書かれていた。特に他の年代より心の安らぎを覚えたと答えた方が50%近かった。仕事の上でも大変な時期でこれらの絵や歌が働き盛りの人々の心を落ち着かせ、安らぎを与えていることが分かる。そして母親にも見せたいと思うやさしさも、そこから生まれているように思う。今こそそのような絵や歌が必要で、特に心のリフレッシュの意味でもこの年代の人々に見せてあげたいと思った。

〈30代女性〉

絵

1 赤蜻蛉(10)	9 夏の思い出(2)	17 思い出のアルバム(1)
2 さくら(8)	10 夕焼小焼(2)	18 海(1)
3 かあさんの歌(8)	11 牧場の朝(2)	19 ウミ(1)
4 春が来た(4)	12 叱られて(2)	20 浜辺の歌(1)
5 ずいずいずっころばし(4)	13 花(1)	21 月の沙漠(1)
6 故郷(3)	14 荒城の月	22 浜千鳥(1)
7 どんぐりころころ(3)	15 朧月夜(1)	23 たき火(1)
8 雪(3)	16 お山の杉の子(1)	24 青い目の人形(1)

歌

1 赤蜻蛉(4)	9 春の小川(1)	17 旅愁(1)
2 揺籠のうた(3)	10 朧月夜(1)	18 紅葉(1)
3 夏は来ぬ(2)	11 からたちの花(1)	19 村祭(1)
4 海(2)	12 鯉のぼり(1)	20 浜千鳥(1)
5 しゃぼん玉(2)	13 四季のうた(1)	21 どんぐりころころ(1)
6 夕焼小焼(2)	14 われは海の子(1)	22 雨降りお月(1)
7 冬景色(2)	15 故郷(1)	23 里の秋(1)
8 荒城の月(1)	16 この道(1)	24 ちいさい秋みつけた(1)

5 絵を見られた感想をお書き下さい。

- 自分のイメージと違う絵があった。曲の歌詞は昔なのに絵は現代とか、曲の主題と少し違う感じの絵に少し不満です。春のコーナーが一番良かった。
- 題名を見て自分のイメージした感じの絵だなと思うのが多く、共感出来ました。自分の子供

にもっともっと童謡を聴かせて、うたってあげなくては、日本のよい歌を伝えてゆかなければと思いました・画家によりいろんなタッチがあり、心を楽しませてくれたように思いました。

- みんな優しい絵でした。童謡ってこんなに沢山昔から歌われているのですね・情景が浮かんでまた歌を口ずさんで、楽しい気分になりました。子供たちに歌って聴かせたい素朴な歌ばかりですね。今の歌はテンポも速くて覚えるのも大変ですが、昔懐かしい歌は1度聴くと耳の奥に残っていて思い出すことが出来ます。・楽しい時間でした・歌いました。思い出の歌もありました絵も素晴らしい・とても美しい絵ばかりで感激しました。懐かしさ、楽しさ、ちょっぴり淋しさ、色々な思いが浮かんで来て良い一時を過ごせました・歌うと絵の中に引き込まれて行くようになりました。心が温くなりました。
- 改めて日本の美しさを思い出すことが出来てよかった・小さい頃育った風景が懐かしく思い出された・おばあちゃんや子供を連れて来たいと思いました。歌を口ずさみながら見入ってしまいました。今日は家族5人、67歳の母も懐かしく見ていました。子供の頃に帰って歌っている懐かしい自分に会えたように思います。一時の時間でしたがよい思い出になりました。ありがとうございました。(2名)ずっと歌い継いでいきたいです。

〔考 察〕

30代の女性の絵のトップは「赤蜻蛉」で10名の人がいた。「かあさんの歌」は2番目で8名、今迄にないことであった。この2曲の歌は絵としても歌としても今迄の各年代であげられている。ふる里と母の関係は大きいことが分かる。そんなことも影響して「浜千鳥」も出て来ている。絵の感想を見ると自分のイメージと違う絵に不満もあった。また子供にもっと日本の童謡やよい歌を伝えてゆかなければと思われた方もあり、この展覧会の日本の心を伝えてゆくという本当の意味もここにあるように思った。アンケートの最後に展覧会に対する御礼の言葉があった。2名の方が家族5人で来られていた。おばあちゃんや子供も連れて来たい(3歳・5歳・7歳)等もあった。

〈40代男性〉

絵

- | | | |
|-----------|---------------|----------------|
| 1 雪(4) | 10 春の小川(1) | 19 どんぐりころころ(1) |
| 2 赤蜻蛉(4) | 11 春よ来い(1) | 20 五木の子守歌(1) |
| 3 故郷(3) | 12 鳩(1) | 21 かごめかごめ(1) |
| 4 蛍の光(2) | 13 さくら貝のうた(1) | 22 七里ヶ浜の哀歌(1) |
| 5 埴生の宿(2) | 14 海(1) | 23 浜千鳥(1) |
| 6 荒城の月(2) | 15 夕日(1) | 24 たき火(1) |
| 7 夕焼小焼(2) | 16 夏の思い出(1) | 25 雪の降る街を(1) |
| 8 月の沙漠(2) | 17 琵琶湖周航の歌(1) | 26 かあさんの歌(1) |
| 9 里の秋(2) | 18 十五夜お月さん(1) | |

歌

- | | | |
|-------------|------------|---------|
| 1 かあさんの歌(4) | 2 あざみの歌(2) | 3 故郷(2) |
|-------------|------------|---------|

4 旅愁(2)	10 早春賦(1)	16 椰子の実(1)
5 赤蜻蛉(2)	11 四季のうた(1)	17 ちいさい秋みつけた(1)
6 里の秋(2)	12 夕焼小焼(1)	18 雪(1)
7 雪の降る街を(2)	13 ウミ(1)	19 かなりや(1)
8 あおげば尊し(1)	14 どんぐりころころ(1)	20 叱られて(1)
9 さくら(1)	15 月の沙漠(1)	

5 絵を見られた感想を書いて下さい。

- 絵と歌がマッチしている。○それぞれの作家の個性が出ていると思います。昔を思い出すきっかけとなった曲が沢山ありました。○描かれた方の経歴より、絵のイメージを添えて頂きたかった。○幼い頃から歌いながらイメージした情景とピッタリ同じ絵もあったり、全く違ったイメージの絵もあり楽しかったです。違ったイメージの絵に出会うと、こんなイメージの仕方もあるのかと思いました。素晴らしい作品をありがとうございました。
- 1つのテーマに多くの一流画家が参加し、展覧会が開けるということは素晴らしい。
- 素晴らしい絵(日本のふる里的な)を拝見させて頂き、ただ感激しました。(48歳)
- 大変感動しました。小生写真を仕事としておりますが、このようなテーマで、このような表現が写真で出来たら素晴らしいと思いました。
- 美しい、素晴らしい、ほっとした、大変よかった65万通のメッセージがよかったなど沢山ありました。
- 自分の仕事にヒントをくれました。ありがとう。素直に描かれていました。
- 結構な企画、県下にはほこれる企画、私も嬉しくなった。(高遠)

〔考 察〕

40代の男性で4の質問、絵については「雪」がトップとなり、「琵琶湖周航の歌」が初めて出て来ている。歌の方では「かあさんの歌」がトップで「旅愁・赤蜻蛉・里の秋・雪の降る街を」と複数で続いているが、ここでも初めて「あざみの歌」が出て来ている。5の質問では、自分のイメージと合っていたりまた違っていた感じを記入されている方が多かった。違ったイメージでも、それを楽しんでいる様子があり、幅広い見方をされているように思う。この企画の素晴らしさを素直に喜んでいたり、写真の仕事を通して写真での表現を考えている方や、仕事のヒントを得た方などがあり人生経験の広がりと共に得られる表現のように感じた。

〈40代女性〉

絵

1 赤蜻蛉(15)	6 蛍の光(5)	11 朧月夜(3)
2 春が来た(8)	7 さくら貝の歌(4)	12 春よ来い(3)
3 雪(8)	8 夕焼小焼(4)	13 花かげ(2)
4 故郷(7)	9 ウミ(4)	14 あざみの歌(2)
5 さくら(5)	10 荒城の月(3)	15 五木の子守歌(2)

16 海(2)	21 たき火(2)	26 めだかの学校(1)
17 かごめかごめ(2)	22 雪の降る街を(2)	27 里の秋(1)
18 故郷の空(2)	23 お山の杉の子(1)	28 花嫁人形(1)
19 どんぐりころころ(2)	24 四季のうた(1)	29 ペチカ
20 ふじの山(2)	25 七つの子(1)	

歌

1 赤蜻蛉(8)	10 早春賦(2)	19 埴生の宿(1)
2 さくら(6)	11 思い出のアルバム(2)	20 四季の歌(1)
3 かあさんの歌(5)	12 この道(2)	21 波浮の港(1)
4 浜千鳥(4)	13 みかんの花咲く丘(2)	22 芭蕉布(1)
5 荒城の月(3)	14 夏の思い出(2)	23 紅葉(1)
6 朧月夜(3)	15 この道(2)	24 あの町この町(1)
7 あざみの歌(3)	16 どんぐりころころ(2)	25 砂山(1)
8 故郷(3)	17 雪(2)	26 影を慕いて(1)
9 冬景色(3)	18 春の小川(1)	27 お猿のかごや(1)

5 絵を見られた感想をお書き下さい。

- 作者のイメージと見る側のイメージの違った作品もあったが、作者の心を感じることが出来たと思う・色彩がやわらかいものが多く、絵を見てメロディーが浮かび、ほのぼのと心に響く感じでした・色彩がきれいでした。日頃忘れていた何かを思い出させてくれるような気がしました・すばらしかった・楽しかった・もう一度ゆっくり静かに見たい・心が洗われるよう。
- 懐かしい歌で口ずさみながら回りました。現在保育園でも、こうした歌は余りうたわれなくなっております。是非うたい継がなければいけないと反省しました。今後頑張っとうたってゆこうと思います(保母)。他若い人に伝えたい歌です・もっと歌われるといいなと思います。
- とても懐かしく感じるとともに、今の自分の子供たちが大人になった時、こんな風を感じる歌や風景があるだろうかと思いました。
- 遠い昔、祖母や母にうたってもらったことが、懐かしく思い出されました。沢山の絵の中にそれぞれの歌に込められた想いが何かを訴えているようで胸が熱くなりました。今の子供にもっともっと、この歌の心を分かって欲しいと願います。そしてこういう歌の中で育った時代を宝物のように嬉しく思います。
- “お山の杉の子”“待ちぼうけ”亡くなった父がよくうたってくれました。館内では、私たち3人の子供が若かった父の楽しげな歌声を、子守唄に聞いているような世界に引き込まれてしまいました。心が洗われるすばらしい企画です。

〔考 察〕

4の質問では、絵・歌共に1位「赤蜻蛉」となっていた。新しく「ペチカ」も入って来てい

る。また歌の中に芭蕉布が入っているのも初めてであった。この曲は知らない人の多い曲であった。5番の質問では絵に対するイメージの違いを感じる人もあったが、作者の心を感じ取っていた。色彩のやわらかさ・美しさ・日本画に心を和ませ、心洗われる思いが多かった。絵にまつわる個人の経験、郷愁、このような企画に対して御礼の言葉も述べられていた。また保育者として現在の保育の中で童謡・唱歌を歌わない反省と将来へ向かって歌い継いでゆく必要と希望も述べられていて、嬉しく力強く思った。他にもこの歌の中で育った時代を宝物のように嬉しく思うなど心を動かされた記述も多かった。

〈50代男性〉

絵

1 赤蜻蛉(5)	9 春の小川(2)	17 チューリップ(1)
2 故郷(5)	10 海(2)	18 さくら貝の歌(1)
3 さくら(4)	11 ウミ(2)	19 あぎみの歌(1)
4 里の秋(4)	12 夕焼小焼(2)	20 どんぐりころころ(1)
5 雪(4)	13 浜千鳥(2)	21 ふじの山(1)
6 蛍の光(3)	14 叱られて(2)	22 青葉の笛(1)
7 冬景色(3)	15 美しき天然(1)	23 鞠と殿さま(1)
8 荒城の月(2)	16 早春賦(1)	24 雪の降る街を(1)

歌

1 故郷(5)	8 雪の降る街を(2)	15 夏は来ぬ(1)
2 赤蜻蛉(4)	9 荒城の月(1)	16 みかんの花咲く丘(1)
3 夕焼小焼(3)	10 春の小川(1)	17 この道(1)
4 里の秋(3)	11 朧月夜(1)	18 紅葉(1)
5 さくら(2)	12 早春賦(1)	19 砂山(1)
6 影を慕いて(2)	13 春よ来い(1)	20 あの町この町(1)
7 浜千鳥(2)	14 四季の歌(1)	21 椰子の実(1)

5 絵を見られた感想をお書き下さい。

- 曲にちなんだ絵が、こんなに多くあるという事は、大変素晴らしい。心のふる里として感激しました。本を買って帰って未永くこの感動を残します・童謡とつなげた日本の風景はよい企画と思います・抽象的な絵よりも、幼き頃から口ずさんだ歌が絵と一体となり感動しました。ノスタルジアを感じ、思わず涙が出そうになりました。
- 日本の心、文化がしっかりと、とらえられ、人や自然に対する優しさが十分に込められた絵ばかりで、本当にすばらしく堪能しました・改めて日本人の心の繊細さ、優しさを感じました(しかし気をつけないと、理性と客観性を見失う恐れあり)。
- 日本人には最高の企画・全国の多くの人が見て、情操を豊かにして欲しい。うっとりするばかり・幼い頃遊んだ自然の情景が鮮明に浮かび上がってきた・深い感銘を受けました・心の安らぎを感じました。遠方より観賞に来て見て大変よかったと思います。

○余りもうかりもしないことに手を出して、文化の啓蒙につとめた井上の姿勢を高く評価する。

〔考 察〕

4の質問については絵の中に「美しき天然」等の曲が初めて入り、年代の変わって来ていることが窺える。半面「チューリップ」も初めての曲であった。この年代で初めてというのも不思議に思えた。画面一杯のチューリップの美しさ、楽しさだったのであろうか。歌は「砂山」「待ちぼうけ」なども新しく出ている。50代の男性の上位の絵・歌の順位に1つの型がしっかり見えて来ているように思う。これは「日本の歌・ふるさとの歌」の上位曲に似ている型である。

5の質問については大変感銘を受けた人々が多かった。幼き頃の自然の情景が浮かんだり、懐かしい人々を思う気持も強く、心の安らぎも得ていた。企画を褒め全国の多くの人に見て情操を豊かにして欲しい、また地域文化の啓蒙につとめた姿勢を高く評価する等もあった。半面感動しつつ、しかし気をつけないと理性と客観性を見失う恐れありとの回答もあった。このような見方は初めてだった。

〈50代女性〉

絵

1 赤蜻蛉(26)	11 さくら貝の歌(5)	21 浜千鳥(3)
2 雪(11)	12 蛍の光(4)	22 花(2)
3 さくら(10)	13 雨降りお月(4)	23 早春賦(2)
4 春が来た(8)	14 里の秋(4)	24 朧月夜(2)
5 故郷(8)	15 叱られて(4)	25 オウマ(2)
6 ウミ(6)	16 春の小川(3)	26 夕日(2)
7 海(6)	17 鯉のぼり(3)	27 夕焼小焼(2)
8 どんぐりころころ(6)	18 めだかの学校(3)	28 紅葉(2)
9 雪の降る街を(6)	19 あざみの歌(3)	29 十五夜お月さん(2)
10 荒城の月(5)	20 牧場の朝(3)	30 七里ヶ浜の哀歌(2)

歌

1 赤蜻蛉(9)	11 みかんの花咲く丘(3)	21 海(2)
2 朧月夜(7)	12 夕焼小焼(3)	22 夏の思い出(2)
3 かあさんの歌(7)	13 この道(3)	23 牧場の朝(2)
4 里の秋(5)	14 月の沙漠(3)	24 ちいさい秋みつけた(2)
5 叱られて(5)	15 浜千鳥(3)	25 椰子の実(2)
6 雪の降る街を(5)	16 花(2)	26 花嫁人形(2)
7 荒城の月(4)	17 美しき天然(2)	27 蛍の光(2)
8 故郷(4)	18 からたちの花(2)	28 チューリップ(2)
9 早春賦(3)	19 花かげ(2)	29 紅葉(2)
10 さくら貝の歌(3)	20 鯉のぼり(2)	30 お正月(2)

5 絵を見られた感想をお書き下さい。

- ほのぼのと温かいものを感じました。特に荒城の月は、あんな色彩で夜の景色を描いてみた
いものだと思います・歌に合わせて絵を描くことは大変と思いますが、すばらしい絵で感
動しました・やさしい色使いが美しかった・人それぞれ感じ方が違うのですが、絵によっ
ては歌の内容に添ったものを描いた方がよかったかなとか、子供の表情が大人ぽくって惜し
かったなとか、歌の題名をかくしたら、何の絵を描いたのかわからないのもありました。
- 以前にTVで見て感動しましたが、思いがけず本物に出会うことが出来ました。歌、特に童
謡は大好きなので、色々な想像をしていました。今回のものを見て、各々のふる里は生まれ
育った所によってすべて変わるのだと思います。1つの歌を十人十色でイメージがあって当
然だと思います。何回やっても新しい絵が出来るでしょう、だからまた描いて下さい。
- とても穏やかな、やさしい気持ちになりました。うっとりするばかりです・幼い日を思い出
します。すばらしい・今は亡き母がよく歌ってくれました…まだ沢山ありました。
- 次第に失われてしまいそうな、懐かしい日本の風景を美しく感じました。

〔考 察〕

この年代は人数が多いので1曲ごとの数字も大きい。

4の質問については絵・歌共に「赤蜻蛉」が第1位で26名となっている。歌と絵の関係もあ
るようと思うが各年代共通する絵と歌がある。調査用紙には「ふじの山」・「犬のおまわりさ
ん」の絵も描かれていた。5の質問については各年代共に深く感動しているのは同じである。
両親の元気だった昔を思い出しました。「叱られて」は、いつ見ても胸がキュンとなります等
親を思う記述も多かった。この中でイメージの違う絵について『ふる里は生まれ育った所
によってすべて変わるもの。1つの歌でも十人十色のイメージがあって当然、何回描いても、新
しい絵が出来るでしょう』と書かれた方があった。描かれる方の年代によってもそれは変わ
て来る。だからこそ平山先生始め各先生が今ふる里の姿を残しておかなければならないと感
じ、今回の絵を描かれたのだと思う。

〈60代男性〉

絵

1 赤蜻蛉(14)	11 ウミ(2)	21 十五夜お月さん(1)
2 夕焼小焼(6)	12 故郷の空(2)	22 影を慕いて(1)
3 雪(6)	13 城ヶ島の雨(2)	23 牧場の朝(1)
4 あの町この町(6)	14 紅葉(2)	24 五木の子守歌(1)
5 さくら(6)	15 蛍の光(1)	25 琵琶湖周航の歌(1)
6 故郷(5)	16 蝶々(1)	26 青葉の笛(1)
7 冬景色(4)	17 春の小川(1)	27 ペチカ(1)
8 荒城の月(3)	18 朧月夜(1)	28 四季の歌(1)
9 里の秋(3)	19 この道(1)	
10 叱られて(3)	20 砂山(1)	

歌

1 荒城の月(5)	9 夏は来ぬ(2)	17 浜千鳥(2)
2 故郷(4)	10 ウミ(2)	18 叱られて(2)
3 赤蜻蛉(4)	11 夏の思い出(2)	19 かあさんの歌(2)
4 里の秋(4)	12 紅葉(2)	20 蛍の光(1)
5 かあさんの歌(4)	13 城ヶ島の雨(2)	21 さくら(1)
6 さくら貝の歌(3)	14 椰子の実(2)	22 からたちの花(1)
7 夕焼小焼(3)	15 あの町この町(2)	23 花かげ(1)
8 雪の降る街を(3)	16 雪(2)	

5 絵を見られた感想をお書き下さい。

- 日本画としては小品ですが、作者の年齢に合った表現が感じられ、やわらかい色調のものに好感を持ちました。バックに流れる曲と相まってよい雰囲気でした・私たちが童謡を聞いて育った頃の風景と違い、現代風景があって、ややそぐわないと思うものが少々ありました。人は様々なので必ずしも自分と一致しないが、月の沙漠に王子様・お姫様がいないのはどうしたのだろう。(このような例は他にもあった。)
- 微に入り細にわたった繊細な日本画の美しさと、穏やかな色彩をたっぷり味わえました。
- 非常にすばらしい企画で感銘しました。高遠の町とよくマッチした企画でした。
- 雪の絵に信州の冬の風景が重なりました。(千葉)・心が落ち着き鑑賞出来ました・初めて自分の年齢を実感しました。こうした歌をうたっていた頃が懐かしい。遠路来たかいがありました。
- 久し振りに青年になるまで、父親として子供に歌ってやった日々を思い出しました。
- お金がなくても暖かい・心がいっぱい。

〔考 察〕

4の質問について、この年代で感じたことは1位の曲は50代と同じだが選ばれた絵や曲を見ると「城ヶ島の雨」「影を慕いて」「ペチカ」「琵琶湖周航の歌」などに、この年代(60代)の男性のロマンを感じさせる選曲になっているように感じた。

5の質問については、他の年代と同じように大変感銘を受けていたり、心の安らぎを感じていた。その中で父親の音楽(歌)を通した教育の姿があり、心を打たれた。

高遠町とマッチしたよい企画と感じられたり、雪の風景画を信州の冬に重ね合わせる方などがあつた。これらの絵は幼き頃やふる里に帰った安らぎを感じさせていて、現代の生活の中のオアシスの役目も果たしているようにも感じた。

<60代女性>

絵

1 赤蜻蛉(15)	3 荒城の月(10)	5 雪(9)
2 さくら(12)	4 故郷(9)	6 さくら貝の歌(8)

7 蛍の光(6)	15 たき火(4)	23 十五夜お月さん(3)
8 春が来た(6)	16 春よ来い(3)	24 月の沙漠(3)
9 冬景色(6)	17 蝶々(3)	25 あの町この町(3)
10 牧場の朝(5)	18 早春賦(3)	26 お猿のかごや(2)
11 里の秋(5)	19 しゃぼん玉(3)	27 浜千鳥(2)
12 春の小川(4)	20 アメフリ(3)	28 花(2)
13 からたちの花(4)	21 海(3)	29 朧月夜(2)
14 雨降りお月(4)	22 夕焼小焼(3)	30 花かげ(2)

歌

1 赤蜻蛉(15)	11 荒城の月(3)	21 夕焼小焼(2)
2 里の秋(8)	12 叱られて(3)	22 夏の思い出(2)
3 さくら貝の歌(8)	13 たき火(3)	23 サッちゃん(2)
4 浜千鳥(5)	14 蛍の光(2)	24 城ヶ島の雨(2)
5 かあさんの歌(5)	15 花かげ(2)	25 月の沙漠(2)
6 早春賦(4)	16 春が来た(2)	26 牧場の朝(2)
7 あざみの歌(4)	17 春の小川(2)	27 あの町この町(2)
8 浜辺の歌(4)	18 からたちの花(2)	28 椰子の実(2)
9 あおげば尊し(3)	19 ウミ(2)	29 冬景色(2)
10 さくら(3)	20 海(2)	30 美しき天然(1)

5 絵を見られた感想についてお書き下さい。

- 日本画を少し学んでいるので素晴らしいと思った・絵を描いた方々に若い世代もあり、歌の心と違ってなじめないものがありました。しかし一方で新しい世界を見せてもらった感があります。ぬくもりがあり感動しました。歌にちなみ、これだけの表現が出来るすばらしさを、感謝して拝見させて頂きました。素晴らしい企画でした。また出会いたい。ゆったりしていた時代が懐かしい。
- 今回で4回見に来ました。何故か亡き父母に逢えた思いです・懐かしい、安らぐ、落ち着く、素晴らしい、昔を思い出し楽しい。
- リング作業中にラジオを聞き松本に来ました。子供の頃に返り口ずさみながら夫婦で見学しました。また思い出しながら畑作業を致します。

〔考 察〕

4の質問について絵・歌共に見ると童謡の会等でこの年代の女性に好まれる曲も多く入っていた。歌では「赤蜻蛉」「里の秋」「かあさんの歌」などで、この年代の方は歌をよく知っている方が多い。また男性と曲の順位など少々異なっているのも分かる。5の質問についても感動している様子、懐かしい、心が洗われる、温かになる等が多くあった。中には4回も見に来られた方もあった。日本画を学んでいる方で専門的に見られた方もあった。リングの作業中ラジオで聞き、展覧会を見に来られた御夫婦の姿を想像して、心が温かくなった。そして、この年

代には、沢山の感想があり懐かしさと安らぎを感じていた。展覧会に対する御礼の言葉も沢山添えられていた。

〈70代男性・80代男性〉 80代の男性は人数も6名で回答の記入も少なかったので一緒にする。

絵

- | | | |
|-----------|-------------|----------------|
| 1 里の秋(4) | 6 さくら貝の歌(2) | 11 春よ来い(1) |
| 2 雪(4) | 7 故郷(2) | 12 われは海の子(1) |
| 3 荒城の月(3) | 8 あの町この町(2) | 13 箱根の山(1) |
| 4 叱られて(3) | 9 故郷の空(2) | 14 どんぐりころころ(1) |
| 5 春が来た(2) | 10 春の小川(1) | 15 赤蜻蛉(1) |

歌

- | | | |
|-------------|-------------|--------------|
| 1 故郷(5) | 6 早春賦(1) | 11 青葉の笛(1) |
| 2 荒城の月(3) | 7 春よ来い(3) | 12 雪(1) |
| 3 雪の降る街を(2) | 8 とんがり帽子(1) | 13 叱られて(1) |
| 4 さくら(1) | 9 浜辺の歌(1) | 14 青い目の人形(1) |
| 5 春が来た(1) | 10 夕焼小焼(1) | 15 かあさんの歌(1) |

5 絵を見られた感想をお書き下さい。

- 初めて見て驚きました(貴重な作品ですね)大変懐かしくよく出来ております。
- 遠い夢の中にいる自分、7～8歳頃の風景を思い浮かべた ○私の心と一致しました。
- やはり日本画はよい、懐かしい曲に合わせた絵、それぞれ其の場に居る様な気分です。
- タイトル「わが心の風景画」展に相応しい素晴らしい画展で心が洗われました。深い感銘を受けました。幸せな今日です。

〔考 察〕

大変感動されている方が多い。70代の男性は28名だった。「荒城の月」「故郷」「雪の降る街を」「さくら」などがあつた。また4の質問の場所に高遠美術館から見える山や湖、建物が描かれているアンケート用紙の回答もあり、集計をしながら見入ってしまった。温かい絵だった。一流の作家の作品を鑑賞した喜びと、懐かしい時代のことが書かれ100曲の歌や絵が一度に見られた満足感もあった。特にここでは、ほとんどの方が「ありがとう」と書かれていた。年代が上がるごとに展覧会に対する御礼の言葉が多くなっている。小学校の教室、先生に教えて頂いた光景が浮かぶ回答もあった。どの回答からも長い人生を重ねた方の何とも言えぬ味、深さ、温もり、礼儀正しさを感じた。

〈70代女性・80代女性〉

絵

- | | | |
|----------|-----------|-------------|
| 1 故郷(5) | 4 荒城の月(3) | 7 叱られて(3) |
| 2 ウミ(5) | 5 雪(3) | 8 雪の降る街を(3) |
| 3 赤蜻蛉(5) | 6 冬景色(3) | 9 さくら(2) |

10 さくら貝の歌(2)	12 城ヶ島の雨(2)	14 蛍の光(1)
11 夏の思い出(2)	13 里の秋(2)	15 揺籠のうた(1)
歌		
1 故郷(6)	6 浜辺の歌(3)	11 からたちの花(2)
2 月の沙漠(5)	7 浜千鳥(3)	12 夕焼小焼(2)
3 赤蜻蛉(4)	8 雪の降る街を(3)	13 旅愁(2)
4 叱られて(4)	9 かあさんの歌(3)	14 琵琶湖周航の歌(1)
5 早春賦(3)	10 荒城の月(2)	15 あの町この町(1)

5 絵を見られた感想をお書き下さい。

- 歌と絵が合ってすばらしく思いました。昔懐かしく心がうたれました。
- 近くにこの素晴らしい美術館があるので、よい企画をして下さり老後の幸せを感じます。
- 大変すばらしい絵と歌に会わせて頂きました。(86歳)
- 少女の頃にタイムスリップした思いで、感激しました。大正ロマンを今に甦らせて頂きました。『大正ロマンを今に引き生く八十路にて、かかる催しに会いし喜び』
- 童謡唱歌にマッチした、淡い色彩、やわらかさ、温かさが伝わって来ました。
- 「故郷」の宵待草の黄色、「里の秋」の柿の実の赤、美しい中にも素朴さがあって、私のイメージにピッタリでした。すぐ歌を思い出す絵ばかりでした。
- 1つ1つの絵が個性的で、とても素敵な絵であった。また見に来たい。
- メロディーを心の中で口ずさみながら、1枚1枚を見ました。幼い頃が懐かしく温かく思い出され、平和を感じました。
- 素晴らしい絵画展をありがとうございました。(83歳)

〔考 察〕

80代の女性は8名だったが、記入が少なかったので70代・80代を一つにまとめてみた。それぞれ大きな字で書かれていた。言葉は胸に深く来るものがあった。そして展覧会に対する御礼の言葉も添えられていた。他の年代と同じような作品があげられていて共通するものがあった。初めて短歌も寄せられた。年を重ねることの素晴らしさを感じた。

会場での聞き取り調査で「里の秋」については、海沼実の出身地松代から来られた方が、「海沼先生の曲がどのように描かれているか見たくて来ました。とてもよかった」と感想を述べられていた。

次に各年代の方に行った質問4「あなたの心に残った絵と歌について書いて下さい」の項目について全体の合計の中より、1つの絵や曲について10人より多かったものを次頁の表Ⅲにまとめてみた。

「さくら」「荒城の月」「さくら貝の歌」「赤蜻蛉」の4曲について、表Ⅲの調査では男女共に

表Ⅲ

100曲中の曲の題名 (番号は100曲の順)	男 性		女 性	
	絵	歌	絵	歌
1 蛍の光	10		10	
4 さくら	23	16	26	12
7 荒城の月	17	21	15	12
9 春が来た			21	
13 早春賦				11
14 朧月夜				12
25 さくら貝の歌	10	11	10	11
35 故郷	22	20	33	
43 夕焼小焼	18		13	
46 この道				10
49 ウミ			14	
65 どんぐりころころ	11		11	
67 月の沙漠	12			
68 あの町この町	11			
70 赤蜻蛉	51	20	54	36
73 牧場の朝			10	
76 里の秋	21			14
85 雪	27	14	27	
88 叱られて	16			
89 浜千鳥				14
98 雪の降る街を	15	10	10	
99 かあさんの歌	10	12		17

絵も歌も心に残る作品であった。特に「赤蜻蛉」は数が多かった。「さくら」「荒城の月」については高遠の調査で多かったのも、土地柄、お城と桜の関係があるかもしれないと思ったこともあった。しかし松本も同じ条件で偶然この2つの場所がお城のある町や市であった。関係のない他の土地での調査をしたら変わるかどうか分からないが、多分人々の心に描く絵であり歌であるので変わらないのではないかなと思う。

次に「故郷」「雪」「雪の降る街を」「かあさんの歌」が多く心に残る曲であった。

「故郷」も「雪」「雪の降る街を」にも多くの感想が寄せられていた。100曲どの作品にも静かに心に訴えるものがあつたが、この3曲の絵はそれぞれ静かな山深い里や、深々と積もる雪の風景が描かれていた。「かあさんの歌」は、どの年代にもあつたが年代が高い程多いようにも思われた。

調査数も多かったのも、100曲のどの作品にも感想があつたり、数が挙げ

られていたが、調査の中で数の多かったものを表にまとめた。一口では言い表わせない程、人々の「わが心の風景画展」に寄せた気持は年代を越えて大きいものがあつた。このような展覧会が全国各地で行われ、多くの人々の琴線に触れ「わが心の故郷」を思い出し、ストレスの多い毎日の生活の中で明日への力となって欲しいと感じた。

おわりに

「わが心の風景画展」を通して、各年代別に知っている曲の数、心に残った絵と歌、わが心の風景画展を見た感想などをアンケート調査した。その結果については年代別に感じる事が多かった。10代の中学生の知っている曲数は、他の年代よりやはり少なく45曲程だった。しかし絵を見たり歌ったりして感じる心、感性は他の年代と変わらないし素敵であつた。男生徒の中に、温かい、いいね、夢中になったと表現している生徒もいた。このような気持を持っている中学生や若い人々に、ゆったりした生活の中で、日本の心を伝える童謡・唱歌を伝えてゆき

たいと感じた。そのためには今回の展示のように視覚にも聴覚にも訴えるのは、とても良い方法だと思った。このような機会を増やして欲しいと思う。豊かな感性を育てることの重要性を感じている。

長野県も冬季オリンピックの下に高速道路や新幹線の開通で、故郷の景色は急速に変化した。便利さの中で失ってゆく物も多い。ゆっくりした流れの中で感じる落ち着きと安らぎ、温もりは少なくなっている。また信越線・碓氷峠の廃止により、もう通ることもなくなった熊の平駅、高野辰之の作詩による唱歌「紅葉」の背景となった美しい紅葉は見られない。

中山晋平が母親の危篤の知らせを聞き、信越線の夜行列車の車中で作曲した名曲「ゴンドラの唄」など信越線に関係を持って生まれた曲も数多い。しかし、今回の「長野オリンピック」の閉会式では「ふるさと」が全世界に向けて歌われ、放映された。これからの人は新しい時代の風景が故郷になってゆく。良い点は認め乍ら今迄の故郷を、日本の良さを、これからの人々に伝えておきたいと思う。

今回の調査では年代によって選ぶ曲も少しずつ違っていたが、共通している曲は「赤蜻蛉」「さくら」「雪」「荒城の月」「早春賦」などであった。感想の中には20代以後で各年代共に、疲れている人々が多いように感じた。心が安らいだ、心が洗われた、心が温まった等の回答の中で、30代の男性の中にストレスでイライラしていたが、この風景画展を見て心が安らぎ、落ち着いたと述べ、今度は母親も連れて来たいと書いていた。やさしさは心の安らぎの中から生まれて来る、この回答に心が温かくなった。また、会場の聴き取り調査でも30代の男性が「心を休めることが出来た、このような事が大切であると思う、昔絵を描いたのでもう一度描いてみようと思う。」と述べていた。

作品の素晴らしさから昔を思い出し、懐かしく亡き父母を思い出した方も多かった。美しい色彩、やわらかい色使い、日本画の繊細さは人々に深い感動を与えていた。その中で日本の風景や自然のやさしさ、美しさを再確認・再発見させていた。そしてその事は鑑賞した大勢の人々に、次の世代へ継承してゆく必要性を伝えていたと思う。

保育者の1人は、このような日本の心を伝える歌の大切さを再確認して、明日からの保育に取り入れ頑張るべく決意をしていた。調査の結果からも分かるが10代～80代まで年代を越えて「童謡・唱歌」が人々に「日本の心」として脈々と歌い継がれていることが分かるが、現代の保育でも新しい歌の中に年齢に合った「童謡・唱歌」を取り入れられ、この年代にも繋がってゆくことを願いたい。

また他の年代でも懐かしい時代を思い出し、その中から希望を見つけ出した方もあった。共に素晴らしいことだと感じた。アンケート調査では初めて「わが心の風景画展」に対する御礼の言葉も添えられていた。これは年齢が高い程多かったが若い方、10代の方にも、美しい日本語で御礼の気持ちが述べられていて嬉しいことだった。

それぞれの年代に多くの接点を持っている「童謡・唱歌」は、共通の話題を通して人間関係の広がりを持つ生涯学習としても大切な要素を持っている。更に今回のような絵画が加われれば、より豊かな広がりを得て、充実したものとなる。色々な意味も含めて、大切にしていきたいと思います。

い、日本の財産である。

最後に、この調査に当たり御協力頂きました、信州高遠美術館長 堀井英世様及び美術館職員の皆様、並びに株式会社井上宣伝企画部宣伝企画課課長小林睦和様に心より御礼申し上げます。

また、この3月故人となられました関克彦先生の御冥福を心よりお祈り申し上げます。

参考文献

日本のうた ふるさとのうた

わが心の風景画展 監修 平山郁夫

編集・発行 株式会社講談社（1996年）

ニューグローブ

世界音楽大事典(12) 総監修：柴田南雄・遠山一行

発行所 株式会社講談社（1994年）